



鈴蘭台駅周辺整備を考える会

発行 平成10年3月31日 編集 鈴蘭台駅周辺整備を考える会事務局

ニュース
第8号

● みんなで明るく楽しい駅前に

鈴蘭台駅周辺整備を考える会
会長 田村 達夫

北区の魅力は、何といたっても緑豊かな自然の中のまち、アーバンリゾート「山紫水明」の区だということです。

そして、わがまち鈴蘭台もその一つ、菊水山に登れば眼下に緑につつまれたわたしたちの住むまち並みが一望できます。

古代の国見でいえば、「たたなづく青垣、美わしきまほろばわが故里よ」であり、今風にいえば小部小学校の校歌の「濃みどりの山をめぐらす、ちりばめて家並み美わし」といったところですが、しかし、一旦下山して眼前にみる駅前のご存知の通り、旧態依然で時代後れ、バスの回転もままならぬ狭くて危なっかしい、お互い恥ずかしい思いがする駅前です。

そこで何とかして明るく美しい近代化された駅前に衣替えしたいと、市の主導の下、平成5年10月「駅周辺の整備を考える会」を結成して再出発、以来順調に経過してまいりましたが、思いもかけぬあの大震災で被災市街地の復興が先行ということで残念ながら中断しましたが、復興の進捗とともに近く再び現実のものとして俎上にのぼることは明々白々、現在はその時に備え、コンサルタントの方を交え、先進事例を参考にしたりしながら、具体案の策定を急いでおります。たとえ規模は小さくてもみんなが目を見はるようなすばらしい魅力のある計画案にしたいものです。

すべてに明るく楽しい駅前を私は夢見ています。

楽しいショッピング、楽しく憩えるデッキ、楽しくふれあうサロン喫茶や酒場、楽しい二人の散歩道、シンボルのからくり時計台、整然と整備されたバスターミナルや駐車場、そしてロマンチックな街灯等、夢は広がります。皆様もどしどし夢をお聞かせ下さい。

先日、世界一の吊り橋「明石大橋」が完成しました。今はなき原口市長さん提唱の悲願50年、日本の技術の粋をあつめたものです。その開通を機に駅前からバスを利用して淡路洲本まで行きましたが、所要時間僅か1時間10分。そのうち駅前から藍那のインターまでが、まわりまわって15分、駅前からの道路整備の必要を身をもって体験しました。

21世紀は間近です。是非ともそれまでに念願のこの計画実現のめどをつけたいものです。それには住民の皆様、神鉄をはじめ銀行、スーパー、商店街、事業者の方々、そして市行政ご当局、この三者の一致協力、いわゆる協働が必要条件であることは申すまでもありません。

駅前の整備は市民、企業、市の三つ巴、相互利益、共生につながります。愛する鈴蘭台の発展のため是非ともご理解、ご尽力、ご協力の程よろしく申し上げます。